



フォトヨコハマ 2011 参加企画 ミニ展示企画

「横浜写真の誕生」

【概要】

期間：2011年1月15日（土）から2月18日（金）

場所：横浜開港資料館新館2F特別資料コーナー、および旧館記念ホール

主催：横浜開港資料館

入館料：一般¥200、小中学生¥100（ただし旧館は無料）

展示点数：15点

主な展示資料：幕末明治期に撮影された横浜の風景・人物写真（F. ベアト撮影、下岡蓮杖撮影写真など）、および蒔絵表紙付き写真アルバム

問合せ先：045（201）2100

【趣旨】

日本が開国した幕末は、

世界で写真技術の普及期にあたっていました。

来日した外国人写真家は、東洋の珍しい国の姿をカメラにおさめます。

彼らから技術を学んだ下岡蓮杖などの日本人も

この地で写真館を開きます。

開港場横浜で花開いた横浜写真の世界。

それは日本とこの国の人々を、

世界に向けて発信した新しい媒体でした。

その一端として、F. ベアトや下岡蓮杖、日下部金幣などの写真を紹介します。



横浜大棧橋 明治30年(1897)頃 彩色写真 横浜開港資料館所蔵

[彩色写真について]

一見、カラー写真のようであるが、これは彩色写真である。モノクロ写真に手作業で色をつける。水彩画の伝統と日本人の丁寧な手仕事、そして新しい写真の技術が結ばれて、こうした美しい彩色写真が誕生した。その生産拠点が横浜であったことから、「横浜写真」とも称される。横浜写真のアルバムは蒔絵などの豪華な表紙つきも多く、工芸品としての価値も高い。外国人に人気を博したお土産として明治中ごろに盛んに製作された。